

皆さんこんにちは。

私は馬世傑と申します。中国から来ました。理学生ですが、日本に来る前からずっと日本の物語に興味がありました。という訳で、本日、私は物語と科学について話します。

世の中には、不思議なことがありふれている。色々な疑問をもったから、昔の人たちは、豊かな想像力で物語を作り世界のミステリーを描きました。その中で、一番大切な問題は「人はどこから来たのか」でしょう。

例えば、皆が知っている通り、キリスト教を信奉する西洋の諸国にとって、最初の人間はアダムとイブです。そして、中国の伝説では女媧（じょか）という女神が人間を創造しました。さて、日本の造物主は誰か知っていますか。「NARUTO」を見た人は多分その名前を知っているはずですね。日本の伝説の中に、人間はイザナキとイザナミが創造して、八百万の神の子孫なんです。つまり、どこでも人間の由来に関して、ユニークな物語があります。

でも、科学的な説明、進化論に従えば、人間は神ではなく、バクテリアなどの下等生物から進化したものです。皆さんはどう思いますか。真実は残酷ですね。科学の発展に伴い、たくさんの不思議なことは、どんどん解明されてきました。科学の光に照らされて、私たちが生活している世界が明らかになりました。

そのような例は他にも多い。海の上に、異常な炎がある。昔の人は、それを不知火と呼び、龍神の灯火だと思った。でもそれは蜃気楼という現象で他所の灯りを見たからです。更に、台風や雷があった時、風神と雷神が争っていることを信じる人がたくさんいた。実は、それも空気の対流効果と電離層での分子の摩擦で作られられた自然的なものなんです。確かに、「万事解決してめでたしめでたし」と言いたいですね。しかし全てを明らかにした一方で、世界は退屈なものになったかもしれません。最初から真実とは何かが決まっていたなら、誰も好奇心や想像力を生み出さないのだから、新たな物語も殺されてしまう。そのままだと、世界はただモノクロの科学だけが残されている結果になるのではないのでしょうか。

という訳で、科学の進歩と共に物語を決して忘れないでください。むしろ、物語を忘れず、好奇心と想像力が心に残り離れない人こそ、科学の発展を正しく導けるでしょう。昔、日本の物語では「地中の巨大ナマズが怒れば地面が揺れる」と信じています。今、地震の正体は大陸プレートと大洋プレートの動きで起きるものと解明された。でも、ある科学者は、現代またなまズの研究を繰り返している。彼は、なまズと地震の関係に好奇心を持ち、なまズが予め地震を感じて異常行動をすることを発見した。それは、なまズは微弱な電氣的シグナルを感知するので、地震の前に自分を隠す自衛行動なんです。もし、その機能を分析できるなら、私たちがなまズのように予め地震を防ぐことができるでしょう。

「無限大の夢の後には、何も無い世の中じゃ」この歌詞はずっと覚えている。昔の人間は、99%未知の世界を自分の物語で描いていた。好奇心と想像力は彼らの武器なのだが、現代の科学の研究も、もしこの2つの武器を失ったら、ただ世界をモノクロに染めるだけです。私は海洋生物に関心を持ち、科学の世界に進もうと思っていますが、いつまでも好奇心と想像力を持ち続け、色彩豊かな世界を描き出していきたいと思っています。